

化学工学会

小川氏に学会賞

技術賞は九電など5件

化学工学会は2009年度の学会賞に、東京工業大学特任教授の小川浩平氏を、技術賞に新規の

から鹿児島大学(鹿児島市)で開かれる年会で表彰式を行う。

高度防食技術を実用化した九州電力、西日本プラント工業、プラズワイヤのグループなど、合計20件を決めた。3月18日

小川氏の研究業績は「化学工学のスパイラルアップを目指した新規点と新手法の確立」。研究における視点や手法は通常、対象とする現象や操

作によって異なる。しかし、小川氏は一貫して活用できる情報エントロピーの概念を導入。さまざまな現象や操作に対する新たな切り口を提供した。

実用技術のグループが対象の技術賞は5件。九州電力などの「鉄鋼構造物への高度防食技術」「プラズワイヤ工法」の開発と実用化」は、鉄鋼構

造物の防食対策としての塗装や亜鉛メッキに替わるコーティング技術。操作性・制御性に優れた溶線式プラズマ溶射装置を開発することで、環境に優しいアルミニウム・マグネシウム合金による防食コーティングを可能にした。

そのほかの技術賞は以下の通り。
▽千代田化工建設「高

温空気燃焼技術を用いた新規水素・合成ガスプロセスの開発」▽林原「結晶交換を利用した多孔性結晶糖質の創製技術の確立」▽三菱化学科学技術研究センター、三菱樹脂、金沢大学「新規水蒸気吸着材AQSOAによるデシカント空調の実用化」▽ライオン、山形大

学「通気量がきわめて多い通気攪拌(かくはん)技術の開発と工業化」

科学技術・大学